

藍住町中学生海外派遣事業に引率して



藍住中学校 教諭 元木 いづみ

令和元年 7 月 20 日。ついにオーストラリアへの出発の日がやってきた。生徒たちは、笑顔の中にも期待と不安が混ざった表情をしている。海外訪問はこれが初めてだという生徒がほとんどで、これから始まる異国の地での生活に少し緊張している様子であった。

今回の海外派遣に向けて、生徒たちは、ALT のエダ先生から現地で役立つ英会話を学んだり、現地の学生に向けて日本文化を紹介するプレゼンテーションを考えたりと、「英語で話す」準備をしてきた。こうした準備は必要なのであるが、グローバルな視点に立って考えるとき、真に最も必要な力は、実は、「英語力」ではないことを、現地での生徒の様子を見ながら教えられた。言葉は、「人」次第で変わる。どんなに語学力が高くても、相手を理解しようとする能力が欠けていれば、よりよいコミュニケーションを図ることはできないと思う。今は、翻訳機やパソコンがあれば、あらゆる言語に機械が翻訳してくれる時代である。何事にも恐れずチャレンジする気持ちや、自分の考えをしっかりとつことこそが、「人」を理解するために不可欠であることを、生徒たちも、この 10 日間の体験を通して実感できたようだ。



オーストラリアは、もともと私にとって大切な場所である。人生で初めて訪れた海外の地であり、2 週間のホームステイを体験し、自分の見方・考え方（視野）を広げてくれた大好きな場所だ。生徒たちにも私と同じように素晴らしい心に残る体験をしてほしいと思い、その手助けが少しでもできるならと、この引率の機会をいただいたことに大変感謝し、楽しみにしていた。しかし、なじみのある国とはいえ、初めて訪れる場所ということで、私自身も現地での交通手段など不安もあった。だがやはり、以前と同じように、広大な大地に生きるオーストラリアの人々の大らかで親切な人柄に触れ、現地では不安に思うことが一つもなかった。生徒たちも、現地の中学生たちの明るい笑顔に本当に勇気づけられたようで、日を追うごとに緊張がほぐれ、表情が柔らかくなり、自分から話しかけることもできるようになっていた。やはり、笑顔の力は世界共通！！だと感じた。今後の学級経営にも活かしていきたいと思う。

「異文化理解」という言葉は私の身近な言葉である。今回の体験を通して私は、「異文化理解」とは、寛容の心だと感じた。国家間の大きな文化の違いだけでなく、人間一人ひとりの文化（当たり前になっていること）の違いを寛容の心で認め合うことによって、あらゆる争いや差別はなくせるものだ確信する。「グローバル」＝「他人に優しい心」だと思うのだ。

10 日間の体験を通して、生徒たちは、若い世代だからこそ感じるこのできたこと、挑戦できたことが本当にたくさんあったと思う。学びとったことを、この藍住町から次の世界へと、どんどん広げて行って欲しいと願う。今回、貴重な機会をいただいたことを感謝します。本当にありがとうございました。

